

北海道大好き！～アイヌ語ゆかりの北海道の地名（第7回）

当社は、白老町において7月12日にオープンを予定しているアイヌ文化復興等に関するナショナルセンター「民族共生象徴空間（愛称：ウポポイ）」の「交流促進官民応援ネットワーク」に参画しています。

その開館がよいよ近づいてきました。先住民族が使っていたアイヌ語を起源とした地名が多く残る我らのふるさと北海道。北海道で使う電気を生み出している発電所所在地の地名などについて、その由来をご紹介します。どうぞお楽しみに。

第7回目は、豊平峡発電所です。

豊平峡（ホウハイキョウ）

札幌市南区の定山溪温泉から中山峠方面へ車をしばらく走らせると豊平峡ダムへの入口が見えます。



豊平峡発電所

札幌市の中心部を流れる豊平川をせき止めて造られたこのダムは、1972（昭和 47）年に完成しました。水害の防止、飲料水の確保、発電用の多目的ダムで、美しい流線形のアーチが特徴です。ダム湖は「定山湖」と呼ばれ、その貯水量は4,710 万 m^3 と札幌ドーム 30 個分に相当する巨大な水がめです。

豊平峡ダムは湖と緑の自然が織り成す景観の素晴らしさから、「ダム湖百選」や「水源の森百選」に選ばれており、紅葉の時期には多くの観光客で賑わう人気スポットです。

その豊平峡ダムを水源として発電しているのが当社豊平峡発電所。道央圏の発電所では、使用水量（26.4 $\text{m}^3/\text{秒}$ ）、水の落差（221m）とともに、その出力（51,900kW）も京極発電所（京極町）に次ぐ規模で、電力供給に重要な役割を果たしています。

発電自体は豊平峡ダムの真下で行われるのではなく、落差を確保するため、豊平峡ダムから導水管で 6.7km ほど下流の札幌側にある発電所に送水し、そこで発電しています。

さて、この豊平峡ですが、江戸時代の終わりごろの松浦武四郎の記録には、「往古（おうこ：大昔）神が切開しと言う断崖絶壁」と書かれているように、カムイ・ニセイ（kamui-nisei 神（の）・絶壁）と呼ばれていたとされています。ニセイに関連する地名は、道内各地に見られ、例えばニセコ町を流れるニセコアンベツ川は「ニセイ・コ・アン・ペツ（絶壁（峡谷）・に・ある・川）」に由来するとされています。豊平峡の名は、後になって、豊平川の上流にある峡谷ということで名付けられようです。豊平川の豊平（とよひら）の名は、トゥイ・ピラ（tuy-pira 崩れる・崖）あるいは トウエイ・ピラ（tuye-pira（川水が）崩す・崖）に由来するとされており、明治期の永田方正の書によれば、今の札幌市の豊平橋のやや上流の支流に崖があったことによるとされています。

（出典：山田秀三「北海道の地名」）